

男女共同参画 シリーズ



ハーモニー

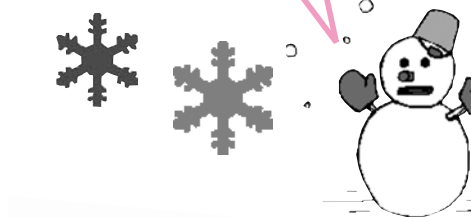
「男女共同参画社会」って、「聞いたことはあるけれど、なんだかよくわからない」という方が3割以上、「全く知らない」という方が3割弱。昨年度に実施した「男女共同参画に関する市民アンケート調査」の結果です（昨年の広報2月号で詳細報告）。

こんなに男女共同参画社会の認知度が低いのは、あまり身近な問題と感じられないからなのかもしれません。

男女共同参画について、川柳とイラストで考えてみましょうか？家庭、職場、地域などいろんな場面で表現してみました。

理想の夫
昔三高
今イクメン

全国で平成22年中に育児休業を取った男性は1.38%、女性83.7%（厚生労働省調査）です。



南国市役所の管理職は22人（消防本部を除く）。そのうち女性は、たった6人（一般行政職、平成23年4月現在）です。

管理職
女性が増えて
活性化



南国市議会の女性議員は、21人中4人。女性議員や管理職、研究者が少ない日本は先進国の中での男女格差大国です。

防災に
欠かせぬ視点
「共同参画」



防災・減災に備えて、防災会議や消防団への女性の参画が重要です。南国市の防災会議メンバーに女性は何人？

使い方
違えば
言葉も暴力に



言葉の暴力もDVになります。DV相談は年々増加、特に最近60代以上の女性からの相談が急増しています。

町内会
男で知恵出し
汗を出し



地域の清掃や行事の裏方は女性、町内会長は男性、という役割分担がまだまだありませんか？

これまでは男性が政治、経済を動かす、社会も家計も支えてきました。女性には家事、育児、介護、地域活動の責任が任されてきました。男女でしっかり役割が決まっていた、決して平等だとは言いえない面がいろいろありました。

昨年度のアンケート調査でも、「男性の方が優遇されている」という回答が6割を超えています。男女共同参画社会とは、この不平等感をなくし、男女共に一人の人間として尊重し合ひ、それぞれの能力を生かしていける社会です。

「男だから」「女だから」にこだわらず、男女一緒に、仕事も、家事・育児も介護も、地域活動も責任を持ち合い、余暇も楽しむ、そんな生き方ができるのが男女共同参画社会です。

そんな南国市にしたいですね！



※お問い合わせは、生涯学習課生涯学習人権係（☎880・6569）まで